

loco mail

ロコメール 増刊号 2012/10/1

～いつも大変お世話になっております～

今年も残すところあと3ヶ月を切りました。弊社では例年、年末にかけて繁忙期となります。今年もたくさんのお仕事を頂けるようにしていきますので、是非、頑張ってお持ちよく年越しを迎えましょう！

朝晩の冷え込みなど、季節の変わり目で体調を崩しやすい時期となりますので、体調に気を付けて、無理をせずに作業に取り組んで下さい。

社長おすすめグルメ

こだわり
ら～めん

我流



- ◎人気メニュー…ランチセット♪
→ラーメン+日替わりのおかず+ご飯+ドリンクバー
ご飯お代わり自由でなんと¥780！
※夏は冷やしラーメンもOK

- ◎ディナー限定のおかずもオススメ！

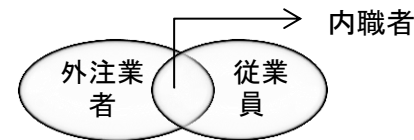
<内職者とは>

内職者は社会的な雇用の形態にあてはめた場合、社の従業員ではなく[個人事業主]という立場にあります。よって、弊社では給与・給料(＝雇用関係)では無く、内職代(＝作業工賃としての代金)と明確化しております。

このことは、形態としては弊社が外注業者(＝他の加工会社など)に作業を依頼することと、皆さんに作業を依頼する事は実質同じであるという意味になります。しかしながら、加工会社はそれを業として行う専門であるのに対し、内職者個人が同じように段取りや全責任を負う事は出来ません。そこで、弊社で段取りを組み、仕上げの検品など出荷作業を行い、最終的な責任を負うという部分では、内職者は従業員に近い側面も持ち合わせます。

従って、弊社における内職者とは、外注であり、また同時に弊社の方針やスタイルで仕事を行っていただくという両面を持ち合わせた立場となります。

以上の点から、弊社の方針やモットーを皆さんに知っていただくこと、そしてそれに沿って作業をしていただくことは非常に重要なこととなります。しかし同時に、一人一人がプロ意識を持って作業をするということも必要不可欠となるのです。



さて、ここで質問です。突然ですが、あなたが仕事をする意義は何ですか？と聞かれた時、皆さんの答えは何でしょうか？

仕事をする「目的」であれば、生きるため、家族のため、欲しい物があるから、などそこに見いだせるものは「お金」だと思います。

仕事をする「目標」であれば、出世のため、独立のため、事業の拡大のため、などそこに見いだせるものは「成果」です。

では、仕事の「意義」は？と聞かれると、意外と難しい質問になります。もしも仕事をしていて、目的もやりがいも見失った時、根底にあるものは何でしょうか？

<作業の先>

ちょうどlocomailのvol.2「あたりまえ」の話を書いた時期に、派遣会社の営業のIさんからこんな話を聞く機会がありました。

Iさんの管轄におでんの詰め加工をする会社があり、毎日10度以下の室内でおでんの具をひたすらセットし続けるという作業がありました。過酷な環境のせいか、派遣労働者が次々と辞めるような状態の中で、Iさんが送り出す派遣さんだけは辞めなかったのです。

その派遣さんは年齢の面で各社で雇用してもらえず、どんな仕事でも頑張るといふ意気込みでIさんの元に来ました。それでもやはり、最初の意気込みのまま続けることは厳しかったり、肉体的につらいこともあったりするのが現実です。そこで諦めてしまう人が大半です。

そんな状況を防いだ、彼女のモチベーションを維持するきっかけに、Iさんの声かけがありました。Iさんは彼女と仕事終わりに会う時には、「今日はいくつの笑顔を送り出しましたか？」と聞いていたのです。

2~3人前入りのおでんを買って食べるのは誰か？どんな人だろうか？と考えた時、家族だったり、恋人だったり、友人だったり、とにかくそこには人の集まりがあって、そしてきっとその集まりにはたくさんの笑顔があるんだろうなって思ったんです。だから、このおでんを詰めるということには、ただ詰めるというだけでなく、大げさかもしれないけど、この社会のどこかの誰かの笑顔を作り出すという意味があるって思えるんじゃないかと。

毎日ただ寒いな、辛いな、って思いながら詰めるより、誰かの笑顔につながることをしているんだ、自分の作業に意味があるんだって思う方が、同じ仕事でも絶対にいいはずなんです。

暮らしの中でおでんを詰めている人の事を意識する人はいないかもしれないけれど、詰めの工程をする人がいなければ商品は成り立たない。企画製造の人、売る人にとっても必要な存在で、決して意味の無い流れ作業では無い。素晴らしい意味があるんだって気持ちで仕事をしてほしいです。

最初はIさんの力説を笑っていた彼女も、段々とその気になり、その気持ちが生き生きと仕事に向き合う姿勢を生み出しました。

「目的」の「お金」を中心に考えると、自分に負の要因と直面した時に、辞めるという選択か、それが出来ない場合には不満をもちながら続けるしか残りません。そして、不満を持ちながらただひたすら時間だけを過ごす。

「目標」の「成果」を中心に考えると、自分の中の一定の成果を得た先に何も無いような感覚に陥ったり、到底目標に届くことが難しい現実を前に、何もかもが嫌になってしまったり、モチベーションは下がってしまいます。

仕事そのものに「意義」を感じられた時、自分を奮い立たせるきっかけになったり、次のステップへの道が切り開けるはずですが。その時にどの仕事にも共通して言えるのが「誰かの役に立つ/誰かが幸せになる」ということです。「あたりまえのことをあたりまえにこなす」理由も突き詰めるとそこに行きつくと、Iさんの話を聞いて感じました。「何故、あたりまえのことをあたりまえにこなさなくてはいけないのか？」という根底の部分を考えさせられたのです。

日本人の仕事の正確さや真面目さに感動した外国人の話で、「買ったサンプル通りの商品が出てきた」「停止位置通りに電車が停まった」という物があります。これは私達にとっては「あたりまえ」ですが、あたりまえでない人からは感動するほどの事、つまり嬉しい、幸せ、と思える事なのです。

「仕事だから」あたりまえのことをあたりまえにこなす、というのは確かにその通りなのですが、この「仕事だから」というは一見理由のようで実は正確な理由では無かったのです。きちんと根底の「意義」が無い限り、その「あたりまえ」が正しく行われることはないのではないのでしょうか。

例えばお菓子の化粧箱。むき出しのお菓子よりも、見栄えをよくしたり、より美味しそうに、或いはより高級に見えるように、産地の写真いりならお土産としての価値を高めたりという様々な効果があります。そこには贈る相手への贈り主からの「気持ち」があつてのこと。その「気持ち」を効果的に演出する一環を内職が担っている。そう考えた時、明らかな不良を入れないことが「あたりまえ」の真の意味に行き着く。また、この「作業の先」を想像することが同時に自分のモチベーションをあげるきっかけにもなり得るのです。

ただしこれは決して作業を神経質にやるとか、必要以上に慎重にやるということではありません。また、毎日、毎回、「この商品の先は・・・」「誰の幸せだ・・・」と考えることは実際には出来ないかもしれませんが。それでも、頭のどこかにあることが、仕事への取組みの姿勢そのものに大きな差が生まれるのではないかと、皆さんの頭の片隅に覚えていてほしい事だと考えます。